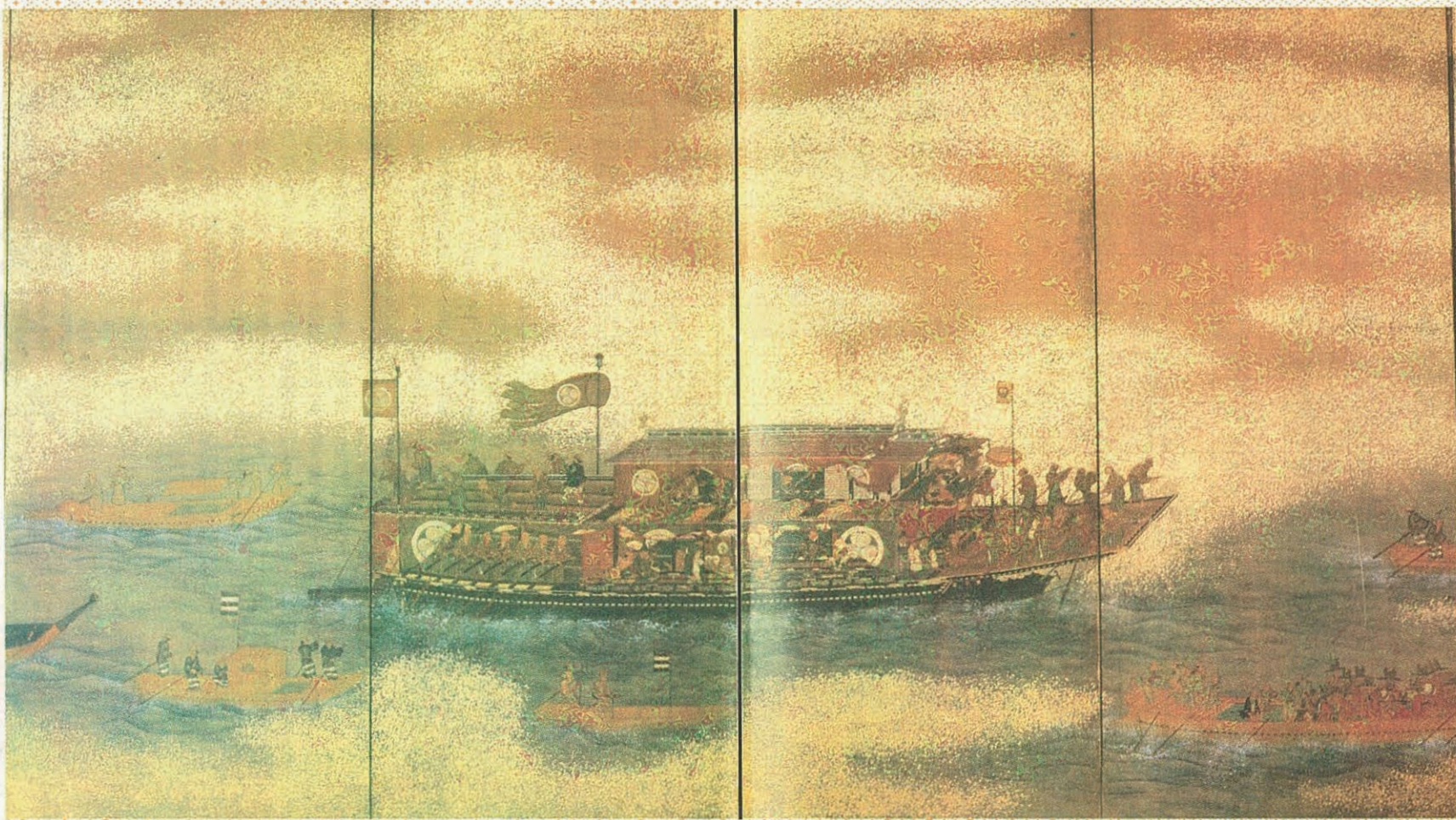




朝鮮通信使御楼船図屏風 部分 [『朝鮮通信使絵図集成』(講談社'85)より]

翔べ！

大阪未来文化！

山下 肇

ここ十年来「地盤沈下」から「関西復興」へと未来構想をふくらませ続けてきた大阪は、水ぶくれの手づまりで付加価値ばかり追っている東京一極集中の苦悶図を逆手にとり、本来の創造的、先駆的で反権力的な周縁思考に世界市民的成熟度を加えた二十一世紀的想像力を縦横に働かせながら、日本人のすべてがいま求めてやまない「真の豊かさ」を創出する、まったく新しい世界都市をめざして、大きく大きく羽ばたこうとしている。

大阪には明日がある。大阪は変わる。現にその槌音が響いてくる。そしてわれらの関西大学は、その新しい「関西」を象徴する最も重要な大阪文化・情報発信基地でなければならぬ。そのためには、すぐれた人材・学生の結集が第一要件である。「考えるとは踏みこえることだ」とE・プロッホ(希望の原理)が言ったように、関大は既に百年の歴史を踏みこえて、自由に世界を展望する千里丘上にのびやかな夢舞台をひろげている。

さきごろこの関大総合図書館で本学大先輩の劇作家北條秀司(文化功労者)の米寿記念展が盛大に催され、のほりやのれんが舞い、書割舞台面の色鮮やかな装置画や絵看板多数が展示されて、「玉将」や「だんじり囃子」の華やいだ世界を現出した。まさに大阪がそこにあった。

北條氏は関大創立八十周年に際して関大「讃歌」を贈った。「千里の森 緑深く 真理の小徑 霧白し 天をつく巨木 蒼穹に響き鳴らし 合歓の炬火 いまぞ燃え立つ 関大 関大 わが関西大学……」と。その力強い自筆稿の筆致を私もそこに見ることができた。関西新空港の竹内社長は「関西圏の飛躍に向けて」という文章を次の言葉で結んでいる。「わが国における国際化時代の表玄関となり、五大大陸へ広がる航空路が設けられ、国内航空の拠点ともなつて、未来への飛躍と世界に羽ばたく二十四時間運用の海上空港として、躍動感・開放感・発展性をもつ空港づくりに、大きなロマンを求めて邁進したい」と。

この新空港をめぐる「りんくうタウン」、大阪湾周辺ベイエリア・ネットワーク開発、関西文化学術研究都市、関西「歴史街道」構想、リニア新ライン等をはじめ陸海空一体の目白押しに並ぶビッグ・プロジェクト群は近未来のグローバルな夢をかきたててやまない。既に「花と緑」は戻ってきた。なにわの三大橋も大改装、前衛芸術家たちは「ヨーロッパ村」で大実験、無党派の若手都市文明研究集団は活発に世論形成を展開中、NHKは「アジアの中の関西」の放映を始めた。しかも、なにわには歴史遺産の重層がある。

ソフトな魅力ある生活文化と自然の共存、異文化共存の「共に生きる」街づくりはいよいよこれからだ。すべてのポータルな壁崩しが世界的に進行する今日、人まかせはいけない。すべての市民が、若者が、一人ひとり自由と勇気で地力をつけていくことだ。「がめついで根性」「もうかりまっか」などはつくりごにすぎない。

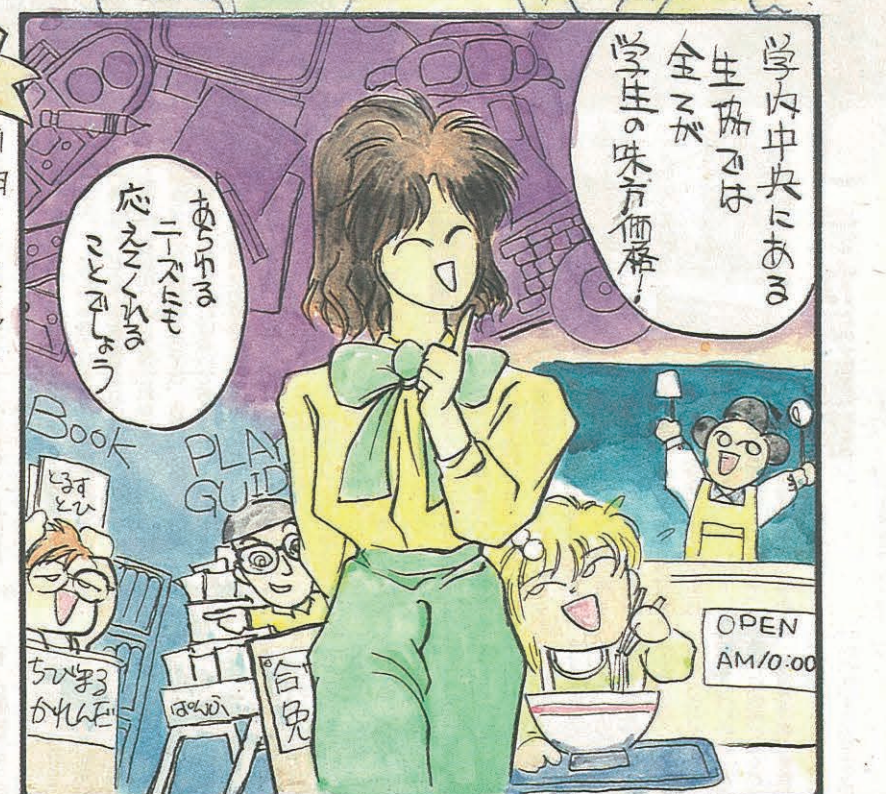
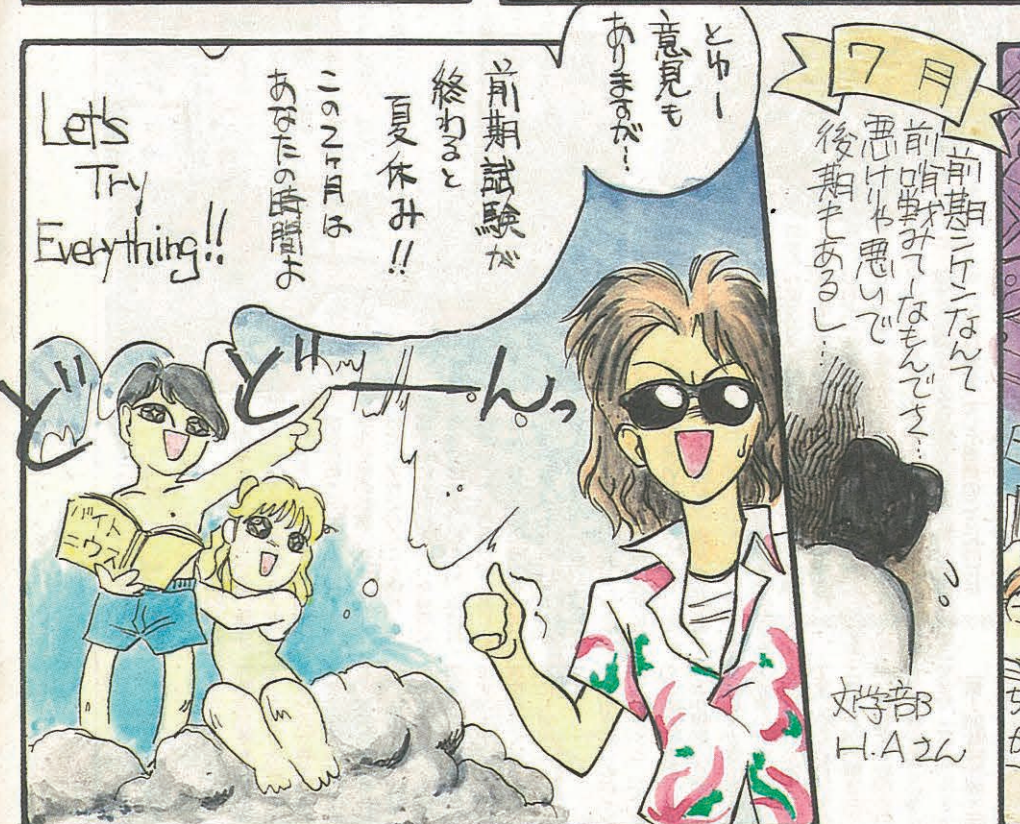
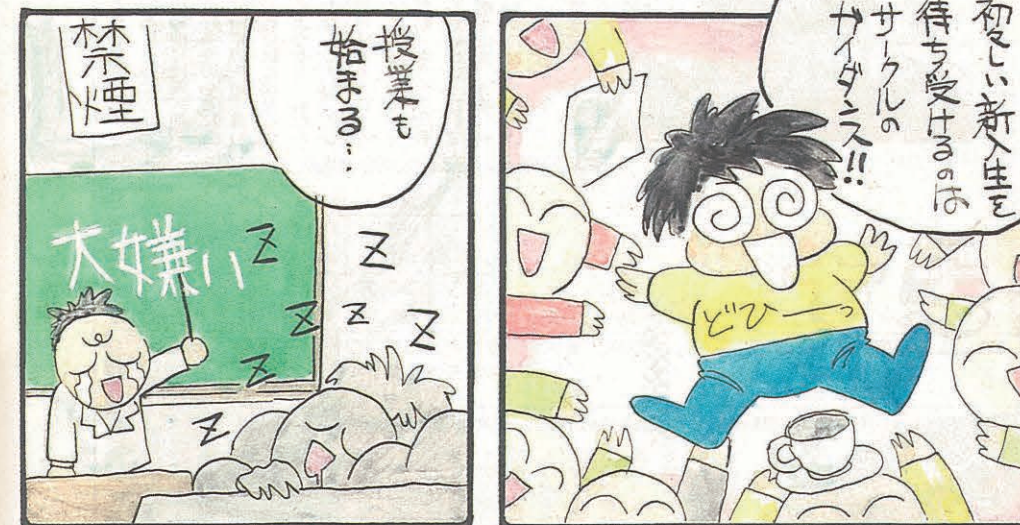
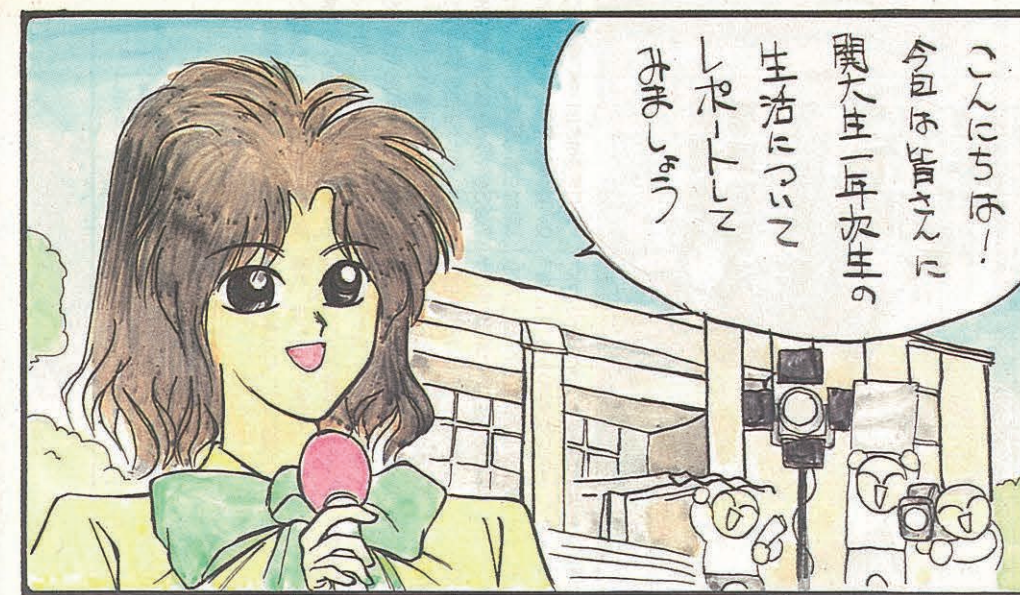
かつて江戸時代に朝鮮通信使は大阪庶民と交歓しながら淀川を華やかに上っていった。大阪モダンイズムの時代に、川端康成も三好達治も、ここから生まれ育ったではないか。

(文学部教授)



この数年間
千里眼ではな
く、先を見通す
眼が欲しいと
どれほど切実に
思ったことが
バレストロイ
カ、東欧民主化
ドイツ統一、ソ
連の危機、そして現在の湾岸戦
争。いずれも十年あるいは数十年
に一回の大事業が、私たちの
想定を上回るスピードと激しさ
で展開してきた▼この文章を書
いている今も、バルト諸国に対
するソ連軍の武力行使を陰で伴
いながら、湾岸戦争が進行して
いる最中だ。ジュネーヴでのア
メリカとイラクとの直接対話の
決裂。国連、EC、フランスの
仲介工作の失敗。撤退期限後一
日とたたないうちに開戦。イス
ラエルへのミサイル攻撃。息づ
く間もなく、くるくると事態が
展開している。短期戦かと思わ
せたアメリカの緒戦の勝利も、
戦争全体の帰趨を左右するまで
にはいたっていない。化学兵器
や核兵器の使用という最悪の事
態まで懸念される。本号が出る
時、はたしてどうなっているや
ら▼戦後四十五年余、日本は平
和であることの幸福を享受して
きた。それだけに平和の大切さ、
生命の尊さを知っている。しか
し、国内が平和であれば、外で
何が起ころうとかまわないとい
うのであれば、あまりに身勝手
だろう。長期戦となれば、少な
く見積もって双方に方を越える
死者が出るというのだから、私
たちの注意、関心、行動の質が、
トリカブト程度では本当に困り
ものなのである▼先日、関西の
とある私大に勤めるロシア史の
先生の心強い話を聞いた。自分
の講義を選択する学生が急増
し、見違えるほどの熱気と真剣
さであるという。大学に勤めて
から初めて「ウン、オレはロシ
ア史でメシを食っている」と実
感し、身震いを覚えたとのこと
▼いつまでも若人の可能性を信
じていたい。その豊かな感受性、
限らない関心と行動力で驚かせ
てほしい。世界は広くて深いぞ。

(K・S)



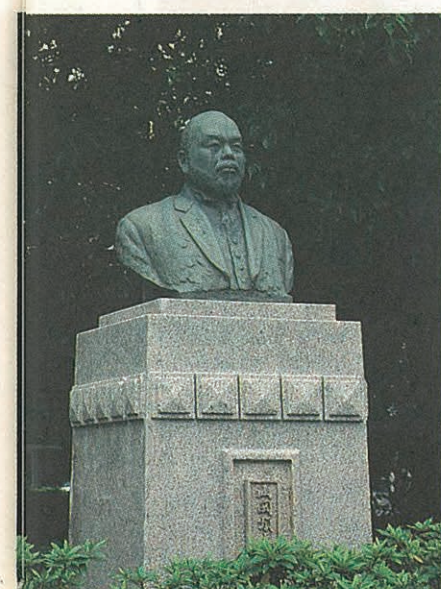
若人の英知とみなぎる気魄、
友情を表した友の像
＜総合図書館前＞



戦後の混乱期の中で、真理の探求のために
は熱気と勇気を持たねばならないと「関大
ルネッサンス」を唱えた岩崎卯一先生（第
17代、19代、20代学長）の胸像
＜岩崎記念館（大学図書館）前＞



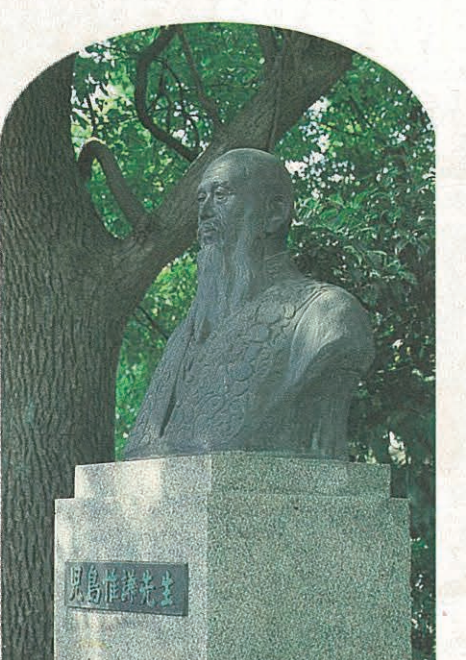
旧制予科で学んだ学生の雄姿を表した予科青春の像



新しい大学の指導理念として「学
の実化」を唱導し、学問と実際の
の調和をといた山岡順太郎先生
(総理事・第11代学長)の胸像
＜第2学舎前＞



「関西法律学校」を創立した司法官たち12人の群像のレリーフ
 <関西大学会館玄関ホール>



司法官を指導し「関西法律学校」
の設立を援助した児島惟謙先生
(大阪控訴院長)の胸像
＜第1学舎前＞

モニュメントに見る

関西大学の歩み

モニュメントに見る

【昭利】

- [illegible]

【平成】

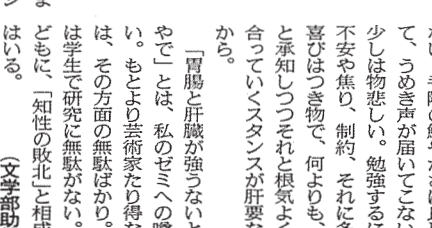
- 【平成】
1・11 一〇〇周年記念会館を竣工。

【大正】

- 11 4 千里山に大学予科校舎竣工し、同年5月大里に大学予科を移転。
- 6 大令令にのり関西工学とし、説語される法学部、法律政治の学科、商学部（商業部）の二部を設置。
- 13 商業部に経済学科を増設。
- 14 2 8 法学部を経済部と改称し、商学部を文学部と改称し、文学科を増設（昭和11年4月開講）。
- 15 8 千里山に大運動場、現第一グラウンド造成。
- 10 クラブハウス、現以文館、造成。
- 第一回大祭を挙行。

【明治】

- | | | | | | | | |
|------------------|----------|------------|----------|--|------------------|-----------------|-----------------------|
| 12 | 39 | 38 | 37 | 36 | 22 | 20 | 19 |
| 大阪市北区内福島区福島舎増成し、 | 商業学科学増設。 | 私立関西大学を改称。 | 経済学科学増設。 | 専門課程による専門科として認可される。大阪市西江戸堀に江戸堀校舎増成し、同年12月移転。 | 第 8 回卒業証書授与式を挙行。 | 大阪府区内区間、興正寺へ移転。 | 大阪西區京町堀を創設し、開講。において、関 |



総合図書館への招待



＜レファレンス室＞ 総合図書館のメイン・フロアは、1階のレファレンス室である。ここには、メインとレファレンスの二つのカウンターのほか、蔵書目録、新着雑誌、参考図書、新聞、複写及びマイクローリダー等の各コーナーがある。



＜メイン・カウンター＞ 図書館蔵書の大部分が、地下の書庫に収蔵されている。このカウンターでは、百数十万冊に及ぶ書庫内図書を利用者に提供するほか、図書館の総合案内の役割を果たしている。



＜レファレンス・カウンター＞ このカウンターでは、レファレンス室に備え付けの辞書・事典・年鑑・統計・書誌等の参考図書を使って、利用者の資料相談に応じたり、文献資料の探し方を指導したりするなど、利用者と資料を直接結び付けるサービスを行っている。



＜グループ閲覧室＞ 三階にはグループ閲覧室が七室用意され、図書蔵書を使って活発なグループ研究討論がなされている。



＜一般閲覧室＞ 三階には異なった雰囲気をもつ読書空間が、東西に分かれて二つ設定されている。好みに応じて自由に座席を選べる仕組みである。



＜総合図書館の全貌＞ 本学図書館は、千里山キャンパスの総合図書館と六ヶ丘キャンパスの天六分館からなっている。昭和六十一年四月に開館した総合図書館は、全国に数ある大学図書館の中でもトップクラスの規模と設備を誇っており、特に図書業務のコンピュータ化は一段と進んでいる。



法学部教授 高森 四郎 共著
『表見代理理論の再構成』
(法律文化社・三〇〇〇円)
本書は、民法総則中の二〇九条、一一〇条、一一二条の表見代理の問題を論ずるものである。本書の特徴は、基本的には通説の表見代理の理論に依拠しつつも、通説に対する批判や反論を取り上げて検討し、補完しようとするものである。一、「白紙委任状の交付と表見代理」では、白紙委任状のほかに適用して整理分析している。

BOOK 新刊紹介

銀幕に魅せられて

映画は若い脳外科医と二人の女の話だった。チェコ動乱を時代背景に、松竹座の前までは行って来たのだが、やはり封切り館はほくほくに合わなかった。看板の絵も気に入らなかった。

『The Unbearable Lightness of Being 存在の耐えられない軽さ』

1988年アメリカ映画
監督 フィリップ・カウフマン
主演 デレック・デ・リント



田舎娘のテレサと都会派のサビーナの奇妙な関係も、男のほくほくには不思議な魅力があった。特にテレサのジュリエット・ピノシュユとテレサ、やっと得た村の酒

田舎娘のテレサと都会派のサビーナの奇妙な関係も、男のほくほくには不思議な魅力があった。特にテレサのジュリエット・ピノシュユとテレサ、やっと得た村の酒

田舎娘のテレサと都会派のサビーナの奇妙な関係も、男のほくほくには不思議な魅力があった。特にテレサのジュリエット・ピノシュユとテレサ、やっと得た村の酒

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ

『西欧経済思想史研究』
(同文館・四〇〇〇円)
本書は、経済学史のあり方をめ